

中学1年生の「都道府県認知度」の現状と課題

— 2008年と2013年の調査結果を比較して —

奥村 信夫*

＜概要＞現行学習指導要領において、小・中学校とも学習内容として都道府県の名称と位置を取り上げることになったことを受け、2013年7月（現行教育課程）に中学1年生を対象に、47都道府県名認知度の調査を実施した。2008年（旧教育課程）に実施した同様の調査結果との比較を通して、その差異と共通性を明らかにし、これからの都道府県を対象とした地理学習のあり方や地図活用の方法を考察する。

＜キーワード＞初等中等教育，保幼小中高連携，地理教育，都道府県認知度，地図の活用

1. はじめに

これまでに帝国書院や国立教育政策研究所が、中学生の都道府県認知度を調査し、その結果を公表している。帝国書院では、2004年1月から3月に全国の中学生を対象に都道府県名認知度調査を実施し、また、国立教育政策研究所では、2007年1月に中学3年生を対象に実施した「特定の課題に関する調査（社会）」のなかで、都道府県認知度に関する調査結果をまとめている。

ここでは、こうした全国調査および5年前の2008年（前任の守山中中学校で1年生を対象に実施）の調査結果と今回の守山北中学校1年生を対象とした調査結果を比較・分析していきたい。

2. 今回の調査の実施概要

・調査対象 守山北中学校1年生149人のうち141人が有効回答

・調査日時 2013年7月（社会科の授業で）

・調査方法

都道府県名と位置双方の認知がどのようになっているのかを把握するのが本調査の目的である。地図・地理に関する質問への記入と合わせて、日本の白地図（各都道府県ごとに1から47までの番号をふった）の番号にあてはまる都道府県名をそれぞれ回答するという方法をとった。都道府県名とその所在地が一致しているなら、正しく漢字が書けていない場合やひらがなまじり、読み間違いでも正答とした。

番号	都道府県名	正答数	正答率	番号	都道府県名	正答数	正答率	番号	都道府県名	正答数	正答率
1	北海道	141	100.0%	17	石川	88	62.4%	33	岡山	39	27.7%
2	青森	135	95.7%	18	福井	80	56.7%	34	広島	52	36.9%
3	岩手	115	81.6%	19	山梨	41	29.1%	35	山口	50	35.5%
4	宮城	55	39.0%	20	長野	85	60.3%	36	徳島	32	22.7%
5	秋田	96	68.1%	21	岐阜	75	53.2%	37	香川	48	34.0%
6	山形	49	34.8%	22	静岡	98	69.5%	38	愛媛	41	29.1%
7	福島	83	58.9%	23	愛知	87	61.7%	39	高知	65	46.1%
8	茨城	56	39.7%	24	三重	90	63.8%	40	福岡	33	23.4%
9	栃木	71	50.4%	25	滋賀	140	99.3%	41	佐賀	52	36.9%
10	群馬	55	39.0%	26	京都	109	77.3%	42	長崎	48	34.0%
11	埼玉	62	44.0%	27	大阪	89	63.1%	43	熊本	44	31.2%
12	千葉	85	60.3%	28	奈良	80	56.7%	44	大分	47	33.3%
13	東京	118	83.7%	29	和歌山	83	58.9%	45	宮崎	27	19.1%
14	神奈川	61	43.3%	30	兵庫	90	63.8%	46	鹿児島	90	63.8%
15	新潟	111	78.7%	31	鳥取	64	45.4%	47	沖縄	138	97.9%
16	富山	60	42.6%	32	島根	52	36.9%				

図1 守山北中学校1年生（2013年調査）の都道府県認知度

(n = 141)

* Okumura, Nobuo : 守山市立守山北中学校 e-mail= n_okumura_m@yahoo.co.jp

3. 守山北中学校1年生(2013年)の現状

(1) 本校1年生の平均認知度

本校1年生の平均認知度は53.0%であった。帝国書院の調査結果報告では、平均認知度(3学年平均)は55.1%, 国立教育政策研究所の調査「地図上の位置から都道府県名を記述する問題」(3年生対象)では、通過率が60.9%となっている。調査時期・調査対象学年が違うとは言え、本校1年生の平均認知度は全国平均よりもやや低い。

(2) 認知度ベスト10・ワースト10

順位	都道府県名	正答率
1	北海道	100.0%
2	滋賀	99.3%
3	沖縄	97.9%
4	青森	95.7%
5	東京	83.7%
6	岩手	81.6%
7	新潟	78.7%
8	京都	77.3%
9	静岡	69.5%
10	秋田	68.1%

図2 認知度ベスト10

順位	都道府県名	正答率
1	宮崎	19.1%
2	徳島	22.7%
3	福岡	23.4%
4	岡山	27.7%
5	愛媛	29.1%
6	山梨	29.1%
7	熊本	31.2%
8	大分	33.3%
9	香川	34.0%
	長崎	34.0%

図3 認知度ワースト10

認知度が80%以上の県は、47都道府県中6県あり、その中で認知度が90%を超えているのは、北海道、滋賀、沖縄、青森の4県であった。地元滋賀を除くと、北海道、沖縄、青森は「全国調査」でも90%を超えているので、同じ傾向であることが確認された。この3県は、日本あるいは本州の北・南端に位置するため、認知されやすいのであろう。特に北海道は、地元滋賀よりも認知度が高く、正答率が100%であったのは、北海道だけであった。

逆に認知度が低かったのは、山梨と岡山を除くと、九州5県、四国3県であった。九州や四国が東北と比べて、各県の認知度が低いのは、都道府県名とその位置を覚えていく際に、北から順に覚えていく方法に起因しているのではないだろうか。それに加えて、東日本大震災(2011年)以降、東北の復興に向けた取り組みが報道されていることと無縁ではなからう。

(3) 地図帳が好きな生徒の認知度

「地図帳に対する好き・嫌い」を問うた質問では、「大好き」「好き」と回答した生徒は141人中60人であった。地図帳の好きな生徒の認知度は、地図帳の嫌いな生徒の認知度より

順位	都道府県名	全体	地図好き
1	宮崎	19.1%	23.3%
2	徳島	22.7%	35.0%
3	福岡	23.4%	31.7%
4	岡山	27.7%	36.7%
5	愛媛	29.1%	48.3%
6	山梨	29.1%	38.3%
7	熊本	31.2%	36.7%
8	大分	33.3%	40.0%
9	香川	34.0%	48.3%
	長崎	34.0%	41.7%

図4 地図帳好き生徒の認知度 から地図帳をよく見る習慣をつけることが大切である。

4. 守山中学校1年生(2008)との比較

順位	都道府県名	正答率
1	北海道	99.5%
2	滋賀	96.0%
3	青森	95.0%
4	沖縄	88.6%
5	京都	73.3%
6	岩手	67.3%
7	東京	63.4%
	新潟	63.4%
9	愛知	61.4%
10	大阪	58.9%

図5 認知度ベスト10

順位	都道府県名	正答率
1	山梨	21.8%
2	栃木	22.3%
	群馬	22.3%
4	山形	24.8%
	島根	24.8%
	福岡	24.8%
7	徳島	25.7%
8	埼玉	26.7%
	鳥取	26.7%
	熊本	26.7%

図6 認知度ワースト10

認知度の高い都道府県は、それほど変わっていないが、認知度の低い都道府県は2008年の調査結果と大きく変わってきている。2013年になり、関東・東北が激減し、九州・四国が大幅に増えているのが大きな特徴である。

5. まとめ

都道府県の名称と位置は、中学校卒業段階で最低限身につけておくべき事項であり、社会生活を送っていく上で不可欠な基礎知識である。生徒に県名とその位置を理解させるには、単純な反復学習だけでは限界があろう。生徒に県名とその位置を定着させる際に大切にしたいのは、その県のイメージと結びつけて理解させることである。都道府県名とその位置とともにその県の地理的特徴にまで認識を高めることが重要であろう。

【参考文献】

帝国書院『中学生の県名・国名認知度調査 結果報告冊子』(2005年)